

第2回 「屋久島一周ウルトラe c oマラニック」における、救護スタッフサイドから見た問題点と改善案

1. チェックポイントを時間内に通過できなかった選手の回収について（途中でリタイアした選手も含む）

問題点 ① 最初の「栗生エイド」のチェックポイントでの足切りタイムと、同エイド発の回収バスの発車時間が同じだった事で、バスに乗せるのを優先するが為に、時間前にもかかわらず選手にリタイアの呼びかけを行う事になった。
結果、選手によっては納得できない人も現れかねず、最悪の場合、クレームの対象になるとも感じた。

改善案 足切りタイムとバスの発車時間に最低30分の時間をとる。
そうする事で、タイムアップ後に救護班が回収してもバスに乗せる時間は十分に確保できる。それにより選手には制限時間一杯走ってもらう事が可能なので納得してもらえらるだろうから、後々のクレーム予防にもなるうえ、少なからずエイドでの補給等の時間もとれる。

- まとめ
- ① タイムアップから、バスの発車時間までに最低30分の時間をとる。
 - ② それにより、救護班が回収しても、バスに乗せる事ができる時間を確保する。
 - ③ 選手がエイドで補給等ができる時間をとる。
 - ④ 総合的に、後々のクレーム予防になる。

問題点 ② 足切りタイムに数分遅れた選手に対して、目をつぶってそのまま通過させた。
結果的には次のチェックポイント前（平内）でリタイアするが、本来ならバス対応だったものが救護班対応になり、それ以降の他のリタイア選手達を回収していった際に、一人定員オーバーで、「尾之間エイド」から案房に戻る際は、スタッフの車を出してもらう形になった。

改善案 気持ちは分かるが、大会運営で選手に告げられているルールを、スタッフの自己判断で勝手に変えないよう、選手共々、ルールの徹底をする。
ルールと言うのは、何処かで線を引かなければいけない為に存在しているので、基本的には厳守しないと混乱が起きる場合がある。毎回本部にお伺いを立てるのも方法だが、もし臨機応変でも良いと言うのなら、そのエイドのチェックリーダーに事前に権限を委ね、あくまでリーダーの判断において臨機応変に対応してもらうのも1つの方法だと思う。
どちらにしても、基本はルール厳守だと言う事を前提に、誰が権限をもっているのかと言う事は、エイドごとのスタッフには周知させておく必要がある。

- まとめ
- ① 基本的にルールは勝手に変えない。
 - ② 本部も大変なので、臨機応変で良い場合は、事前にチェックリーダーに権限を委ねておく。

問題点 ③ リタイアした選手を、大会関係者？が自己の判断で選手を回収し、本部に運搬していた。その際の連絡が各チェックポイントに届いていなかった為、選手の所在を確かめる等の混乱があった。

改善案 リタイアの回収は基本的に救護班で行っているのですが、自己の判断で回収する際は、本部に通知のうえ、各チェックポイントにも必ず本部から連絡を入れてもらい、後々の混乱防止に努める。

まとめ ① 基本的に、リタイアの回収は救護班で行う。
② 救護班以外の場合は、後に混乱しないよう本部への通知を怠らない。

2. その他の気付いた事

問題点 ① 最初の「永久保エイド」で、いきなり提供する物品がなくなり、次の移動先エイドに並べるものが無い状態になってしまった。朝が早いので店も開いておらず、結果的に仕入れる事はできたが、エイド全般で物資不足があった事から、近くに商店が無いエイドでは大変だった。

問題点 ② 意外と「ふれあいパーク」でトイレに寄る人がたくさんいたが、ここは反対走行になるうえ横断歩道もないので立哨が必要。資料には有りとなっているが、朝に救護車でよってみたら誰もいなかった。

問題点 ③ 宮之浦に入ってから一部工事区間があり、そこには立哨が誰もいなかったのも、本来の通行（走る側）が変わってしまっていた場所があった。問題はその後で、宮之浦の信号の立哨の人も事情が分からないのでそのまま見ているだけの人もいれば、あわてて信号を行ったり来たりとバタバタしていた人もいて可哀そうだった。また、確信犯的に反対側を走行する選手もいたので気が付いた選手達には注意したが、後ろの選手が付いて行ってしまう恐れもあるので、選手には徹底した説明が必要。

問題点 ④ 「ふるさと市場エイド」でのチェック係が一人しかいなくて大変だった。事情等が良く分からないのでなんとも言えないが、チェックには最低2人は必要。

問題点 ⑤ 「栗生エイド」からの選手の回収バスを、「尾之間エイド」経由岳だけではなく、念のため「安房」までの各エイドに立ちよってもらうようにするのがベストだと思う。

問題点 ⑥ 夜間走行の選手のリフレクターの電池切れにより、車道を走る車からの確認が難しい人がいた。安全面から言うと少し危なく感じた。

問題点 ⑦ 救護班なのに応急処置をはじめとした救急用具の支給が一切なかった。
各エイドについても同じだが、最低限の物は持っていないと、
何かあった場合やはりイメージが悪いと思うし格好が悪い。

問題点 ⑧ e c o と名乗っている大会本来の趣旨どおり、ゴミ拾いはしていたのか？

3. 個人的な提案として

- ① 途中リタイアや、制限時間を過ぎて完走できなかった選手に対しても、
残念賞的なメダルや証明書の発行をしてあげたい。
- ② 大会開催の雛型に関しては委員長の趣旨を第一とし、そのあとの想定内外の物事に関
しての詳細については、実行委員会の上では元より、各担当のリーダーとは
お互いが納得いくまで十分に意見を出し合い、そこで出た決定事項については、
最低全リーダー間で共有できるようにする。
- ③ 連絡体系の再構築を行う。
全権が委員長だけだと色々なイレギュラーにたいしての処理に限界がある。
委員長以外の各担当のリーダーにも権限も持たせ、役割を分担させるのが望ましい。
- ④ 基本的にはボランティア主体の開催になるので、前夜祭やエイド等で
ギャラの発生する人に声をかけるのは遠慮するようにする。
もし、その人がどうしても必要な場合は、前もって委員会上で議題に挙げ、委員同士で協議する。
ただし、大会に関わる車両のガソリン代については、その限りではない。
- ⑤ ボランティアを募集するにあたり、例えそれが無報酬だからと言っても、
最低限自分の役割を果たしてもらえる人をお願いするようにしてほしい。
そうでないと、真面目にやっている人達の負担が大きくなるし、実際いい加減で戦力にならず、
ましてや途中で穴を開けられるようになった場合、その分の補充の為に、
それでなくても少ない人員を何処かから回さなければならない事になる。
参加してくれるという行為は感謝するが、正直そんな人に気を使い、ましてや
Tシャツやお弁当を支給するのはなんか納得がいかない。

総合的なまとめとして

- ① 役割分担と役割の明確化。
- ② 権限と連絡系統の確立。
- ③ 情報の共有。

この3つは最低限、今後の課題だと思えます。

以下、伊熊の私見です

●スタート時

当日朝の、現場のグダグダ感。

誰が、何をすべきなのか。

わからないときはどうするのか。

参加者をどうさばくのか。

→全く聞かされてなかった。決まっていたのだろうか？

現場の案内看板等がないため、トイレつどこだかわからない。

同じく、スタートした後、トラック出てすぐのミスコース、誘導の不十分も原因の一つ。

→誘導案内の不十分

スタートチェックをしていないので、参加者が全員いるとは限らない状況。

→確認体制の不十分

救護だけが担当とは言われているものの、参加者から見ればスタッフは全員同等

→ 何でも知っていると思われる → その期待には応えるべきである。

→事前の打ち合わせ、調整不足

●各エイド

良く聞かれたのが「足りない」という言葉。

どれぐらい用意していたのか不明だが、確かにぎりぎりな感じに見えた。

また、現場エイド担当者の方も在庫の量を把握できていないので、ひやひやしていたように見受けられる。

しかし、大会が終わってみると、安房には結構な量の飲食物がおいてあった。

何故、これを配って回れなかったのだろう・・・もったいない。

●チェックについて

宮之浦でのチェックを、一人でされていたが、安房スタートのためまだ選手がばらけておらず、

一気に来る場面があった。当然、追い切れるわけもなく、見落としもあったようである。

複数名での対応が望ましい。

また、チェックした後の情報を、次のチェック場所へきちんと伝達が出来ていたかどうか？

最終的にチェック用紙は、私が持って回っていたが、これが本来の姿だったのか？

スタートチェックを行っていなかったため、チェックできてない人が、まだ到達していない人なのか、

それとも、そもそもいない人なのかの把握が全く出来ていなかった。

●道路の誘導について

頂いた資料には、右側通行・左側通行の別が記載されていたが、一部参加者の都合の良い側になっていた。

では、誰がそれを是正するのか？誰が参加者へ声をかけるのか？私は知りません。

●責任・連絡体制の不備

数日前に、連絡体制図を下さいとお願いしていましたが、結局もらっていません。当日、誰に連絡すべきなのか？

困ったらどうすべきなのかが不明瞭なまま、ことあるごとに、御調・三橋の両氏へメッセージを送信した。
→これも正しかったのか、未だによくわからない。

私たち、当日参加組は、正直、実行委員会内の組織関係がよくわかっておらず、はっきりとした回答を得たくても、得られなかった。これは、組織の脆弱さも問題ではあろうが、各実行委員個人の意識にも原因があると思う。
担当した内容に関して、何を聞かれても大丈夫と言うぐらいの知識と責任を持つべき。
心のどこかに「私は悪くないし」という感じの自己弁護の心はなかったか？

●備品について

AEDは用意されていたが、ポケットマスク・ゴム手袋などの感染予防用品が全くなかった。
もちろん、簡単なファーストエイドも。救護班の出来ることは何だったのでしょうか？
今回、私の対応した内容は、足のねんざによるリタイア、複数回の嘔吐、転んで出血ぐらいだが、渡されたAEDで出来ることはなく、全て私物のファーストエイドキットで対応した。
いくらボランティアとはいえ、参加費を徴収しているのだから、開催者側の責任として、何か用意は出来なかったのか？

●西部の立哨について

無線の持参が記載されていたが、通信可能範囲は把握できていたのか？
また、担当者は全員免許保持者だったのか？
小さな綻びを生まないためにも、各担当者の免許の写しやコールサインの確認ぐらいは行うべき。
一応、これって国家資格ですから。

最後に

簡単に言わせてもらおうと、ずっとイライラしていました。
困ったことがあっても、なかなか解決の方向へ進まない現場。
何を誰に聞いてもはっきりとした答えは返ってこない。
「〇〇らしいよ」という、不明確な情報で動こうとする実行委員。
実行委員という中心的な人たちの間でさえ出来ていない情報共有。
報連相という基本的なことが出来ていない状況。
前回は50人の参加者に対して、今回は約3倍。当然、想定すべきことも増えるはず。

実行委員内部が、どのような状況なのかは、よく知りませんが、お手伝いをお願いする人に対して、きちんとした情報提供の環境が整わないならば、次回以降の関わりは遠慮させていただきます。
何も知らされないのに、責任だけ負う必要がある環境は、私にとってリスクしかありませんので。